様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月 ２４ 日現在

機関番号：１６４０１
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2012～2014
課題番号：２４６５２０３６

研究課題名（和文）東洋絵画における支持体と表現

研究課題名（英文）The Support Medium and Techniques of Expression in East Asia Paintings

研究代表者
野角　孝一（NOZUMI, KOUICHI）

高知大学・教育研究部人文社会科学系・講師

研究者番号：５０６１１０８４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,900,000円

研究成果の概要（和文）：日本の絵画における支持体は紙、絹、板など様々である。しかし洋画や日本画などのジャンルを基準とした絵画様式による分類が重視される一方で、支持体に伴う表現の差異については注目されていない。本研究では日本画における支持体と表現の関係に焦点を当て、特定の支持体においてのみ可能となる絵画表現の独自性について再評価を試みた。その結果、西洋画に接近したと言われる大正期の日本画の足取りを野長瀬晩花の作品から読み解くことができた。また日本画の西洋画化が、輸入された写真図版による影響ばかりでなく、日本画家の渡欧によって習得された油彩技法に基づいていたということを作品調査から明らかにすることができた。

研究成果の概要（英文）：The supports used in the Japanese painting include a variety of those such as paper, silk, a hemp cloth, a board, etc. Depending on the supports, painting techniques have changed, which has led expression to alter. However, the classification of picture styles according to genres such as Western painting, Japanese painting, etc., has been regarded as important, with the result that the differences of expression with the supports have received but scant attention.
The purpose of this paper is to study a Japanese painter named Banka Nonagase (1889-1964 (22nd year of Meiji to 39th year of Showa)) and to make it clear that he has succeeded in establishing his original style of painting by means of a specific support and groundwork. This study will enable us to say that his introduction of the groundwork that there was not in the conventional Japanese pictures laid the foundation for the present-day Japanese painting production.

研究分野：日本画制作

キーワード：日本画　支持体　表現

１．研究開始当初の背景

絵画作品は、描くもの（絵具）と描かれるもの（支持体）との関係によって成り立っている。支持体が変われば、表現も変わる。本研究では、印刷などの支持体を選ばない画一的な表現ではなく、特定の支持体でしか出来ない絵画表現の独自性を再評価することを目的とする。我が国では、支持体は、紙、絹、麻布や綿布、板、壁と多様であり、支持体の差異が表現の特色を形作る大きな要因となってきた。特に、大正末期から昭和初期の日本は、日本画用キャンバスや洋画用和紙などの新たな支持体が研究開発された時期であり、旧来の和紙や中国紙と交錯しながら多様な絵画表現を生み出した。既存の絵画様式論からではなく、制作者としての視点や支持体における原料や製法から絵画表現を帰納的に検証し、全く新しい視点をもって絵画における支持体と表現の関係を明らかにするものである。

２．研究の目的

日本の絵画における支持体は紙、絹、板など様々であり、支持体に応じて表現を変えてきた。しかし洋画や日本画などのジャンルを基準とした絵画様式による分類が重視される一方で、支持体に伴う表現の差異についてはあまり注目されてきていない。そこで本研究では日本画における支持体と表現の関係に焦点を当て、特定の支持体においてのみ可能となる絵画表現の独自性について再評価することを目的とした。日本画における支持体と表現の関係について検証する上で、特に注目した時代は大正期とその前後である。この時代には西洋画の影響を受けた日本画に多様な支持体が現れている。なかでも 1918 年（大正 7 年）に結成された国画創作協会の出品作品には、西洋画の影響を受けて新しい日本画の在り方を模索した作品が多数見られる。国画創作協会は、京都市立絵画専門学校（現京都市立芸術大学）の同級生である小野竹喬、榊原紫峰、土田麦僊、野長瀬晩花、村上華岳、入江波光の 6 名を中心に運営された公募団体で、竹喬、麦僊、晩花らは、1921 年（大正 10 年）～1923 年（大正 12 年）に渡欧して西洋画に見識を深めている。特にこの時期の野長瀬晩花[1889 年（明治 22 年）～1964 年（昭和 39 年）]は、紙や絹の他に日本画では一般的でない綿布や寒冷紗などを支持体としており、1923 年（大正 12 年）の第 4 回国画創作協会展に出品した《スペインの田舎の子供》において渡欧の影響が顕著であると言われている。

そこで本研究では、大正期前後の野長瀬晩花作品を対象とした科学的調査を通して、野長瀬晩花の表現の意図を探るとともに、西洋画から受けた影響についての具体的な検証を試みた。

３．研究の方法

調査は【表 1】に示した計 17 点を対象作品として、熟覧、マクロ撮影、蛍光 X 線による彩色材料の分析を行った。なお、対象作品には同時期に描かれた油彩画も含んでいる。
使用した蛍光 X 線分析機器は、NITON 製 XL3t である。測定は、Soil モードで、測定範囲 8㎜φ、測定時間を 60 秒～100 秒/箇所とした。

【表 1】調査を行った野長瀬晩花作品 17 点

制作年	画題	出品展など
明治 44 年	被布着たる少女	
大正 5 年	島の女	
大正 5 年	門づけ	
大正 5 年頃	女奇術師	
大正 5 年頃	大原女と舞妓	
大正 5 年	舞妓図	
大正 6 年頃	三味線を弾く女	
大正 6 年頃	秋の頃	
大正 7 年	初夏の流れ＊	第 1 回国画創作協会展
大正 7 年頃	桜の頃	
大正 9 年頃	早春賦	
大正 9 年頃	さみたれの頃	
大正 11 年	少年像　●	
大正 11 年頃	婦人頭部　●	
大正 13 年	スペインの田舎の子供	第 4 回国画創作協会展
大正 14 年	水汲みに行く女＊	第 5 回国画創作協会展
昭和 2 年	海近き町の舞妓＊	第 6 回国画創作協会展

無印は和歌山県立近代美術館、＊は京都市美術館の収蔵作品。●は油彩画。

調査を行った野長瀬晩花の作品 17 点の中で、特に国画創作協会展に出品した、《初夏の流れ》《スペインの田舎の子供》《水汲みに行く女》《海近き町の舞妓》の 4 点に着目した。これらの作品は支持体として紙ではなく寒冷紗や布が使われており、他の作品と異なっている。またパリで描かれた油彩画《少年像》《婦人頭部》の下地処理に焦点を当て、上記 4 点との比較検証を行った。

４．研究成果

野長瀬晩花が渡欧以前に布に描いた《初夏の流れ》は、鮮烈な色面表現や片隅法による立体感の表現からも、西洋画の影響を受けた作品であることがわかるが、下地として塗られた胡粉は布の織り目を埋めるような下地処理ではなく、従来の日本画で行われてきた発色を良くするための下地であった。

一方、渡欧後に描かれた《スペインの田舎の子供》は、一見すると油彩画やフレスコ画と区別がつかない作品となっており、その要因には油彩技法を参照したと思われる下地処理の導入があった。《スペインの田舎の子供》の下地処理に用いられたとされる胡粉と具墨を混ぜた絵具は、布の織り目を埋めて平滑な画面とする油彩技法の下地処理を日本画技法に転用しようとした野長瀬晩花の工夫である。渡欧先のパリで描かれた油彩画《少年像》《婦人頭部》には下地処理が見られ、《スペインの田舎の子供》は渡欧時に学んだ油彩画技法の影響下に制作された作品であるとして良いであろう。

《スペインの田舎の子供》は屏風仕立ての作品であり、画面には 3 人の人物が配されている。画面中央に配された人物の顔の中心が屏風の中心となるおぜから外して描かれていることや、おぜに折り込まれた支持体に絵具が垂れた跡が見られることから、本作品はあらかじめ屏風に仕立てた状態で制作されたものと推察され、単なる場当たり的な制作方法でないことがわかる。また以後の国画創作協会に出品された《水汲みに行く女》と《海近き町の舞妓》にも下地処理も導入は共通して用いられたと考えられた。

ここには確実な表現技法の変化があり、《スペインの田舎の少女》以降に見られる野長瀬晩花の技法が、表面的に西洋画を模倣した技法ではなく、パリで学んだ油彩技法の習得によって得られた知見に基づいて生み出された技法として評価できる。

今回の調査では、西洋画に接近したと言われる大正期の日本画の足取りを野長瀬晩花の作品から読み解くことができた。日本画の西洋画化が、輸入された写真図版による影響ばかりでなく、日本画家の渡欧によって習得された油彩技法に基づいていたということを作品調査から明らかにできた点で有益な調査となった。

なお、今回の調査では作品の支持体についてはマクロ写真などのデータの蓄積に留まり、繊維を特定するには至らなかった。この点は、今後の研究課題としたい。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

①<u>野角孝一</u>、<u>松島朝秀</u>、<u>高林弘実</u>、田中眞奈子、<u>荒井経</u>、日本画における支持体と表現技法-野長瀬晩花の作品調査を通して-、高知大学教育学部研究報告、査読無、No.75、2015、P249-260 、http://hdl.handle.net/10126/5501

②<u>荒井経</u>、染谷香理、〈資料〉近代日本画の材料（支持体篇）、東京藝術大学美術大学紀要、査読有、No.51、2013、P47-74、ISSN : 0563-8151 / 0563-8151

〔学会発表〕（計１件）

①田中眞奈子、<u>荒井 経</u>、<u>松島朝秀</u>、<u>高林弘実</u>、<u>野角孝一</u>、京都市美術館蔵 木島桜谷《寒月》の彩色材料分析調査報告、文化財保存修復学会 第 37 回大会、2015.6.28、京都工芸繊維大学・京都府京都市

〔図書〕（計１件）

①<u>松島朝秀</u>　他、grambooks、高知県立美術館「大絵金展極彩の闇」展覧会図録、2012、256

６．研究組織

(1)研究代表者

野角　孝一　　(NOZUMI,Kouichi)
高知大学・教育研究部人文社会科学系・講師
研究者番号：50611084

(2)研究分担者

松島　朝秀　　(MATSUSHIMA,Tomohide)
研究者番号： 60533594
高知大学・総合教育センター・特任准教授

研究分担者

高林　弘実　　(TAKABAYASHI,Hiromi)
研究者番号：70443900
京都市立芸術大学・美術学部・講師

研究分担者

平　諭一郎　　(TAIRA,Yuichirou)
研究者番号：10582819
東京芸術大学・アートイノベーションセンター、特任講師

研究分担者
荒井　経　　（ARAI,Kei）
研究者番号：60361739
東京芸術大学・美術学部・准教授

(4)研究協力者
田中　眞奈子（TANAKA,Manako）